小暑
第677号
令和４年７月１日

# ジオスペース館だより

## ★ 今月の星もよう ★

図はステラナビゲーター11 を用いて作成

７月中旬の夜９時頃の星空を見てみると、春の星座はすっかり西に傾き、南から東の空いっぱいに夏の星座が広がっています。東の空高くには《夏の大三角》が昇り、南の空には「ヘルクレス座」「へびつかい座」「へび座」「さそり座」と、天頂から順に並んでいます。南の空の低い位置にある「さそり座」を見ると、目を引くのが真っ赤な明るい星、１等星のアンタレスです。アンタレスは元々ギリシア語で「アンチアーレス＝火星に対抗するもの」という意味で、時々アンタレスの近くを通る火星と互いの赤い輝きを競うように見えるため、このように名付けられました。その「さそり座」の上には、将棋の駒のような形をした「へびつかい座」があります。「へびつかい座」で最も明るい星は駒の頭にある２等星のラスアルハゲ（アラビア語で〈へびを持つ者の頭〉という意味）。そして、「へびつかい座」の両側に伸びているのが「へび座」です。「へび座」と「へびつかい座」は元々は一つの星座でしたが、後に分割されたため、「へび座」が「へびつかい座」にさえぎられて頭と尾が東西に分かれた珍しい形になっています。このような分割されている星座は「へび座」以外にはありません。

## ★ おりひめ（織り姫）・ひこぼし（彦星）　【星の和名のお話】

「織り姫」と「彦星」の七夕伝説は、昔の中国で生まれた物語です。七夕の夜に「織女星」（「こと座」の１等星ベガ）と「牽牛星」（「わし座」の１等星アルタイル）が、１年に１度巡り合うという話が、古代日本に伝わり、日本では織女を「織り姫」、牽牛を「彦星」と呼び親しまれています。中部地方や西日本の各地では、２つの星を合わせて「七夕」と呼んだ上で、「織り姫・彦星」を、「めん七夕・おん七夕」、「先たな・後たな」、「西七夕・東七夕」、「上七夕・下七夕」など、性別や昇る順序、配置などで呼び分ける例が見られます。

## ★ さそり座の〈頭の星〉を隠す月に注目！！

７月 10 日の夜、南西の空で、月が、さそり座の頭の星（δ星ジュバ）を隠してしまい、ジュバが見えなくなるという現象が起きます。月や惑星などの天体が、別の天体を隠す現象を《食》といい、夜空では度々起こる現象です。月が太陽を隠す《日食》は有名ですが、月が恒星や惑星を隠す場合を《星食》といいます（前者を《恒星食》、後者を《惑星食》と呼び分けることもあります）。暗い星だと見えにくいのですが、今回のジュバは２等星と明るく、月がこうした明るい星を隠す時は、観察のチャンスです。豊川市周辺では、ジュバが月に隠されるのが 22 時９分頃、再び現れるのは 23 時 25 分頃と予想されています。月は上弦から満月に向う明るい頃なので、ジュバは肉眼では見えづらいかもしれません。双眼鏡や望遠鏡を使って観察してみましょう。また、７月 14 日の満月は今年最も地球に近い位置での満月であり、今年最も大きく見えます。

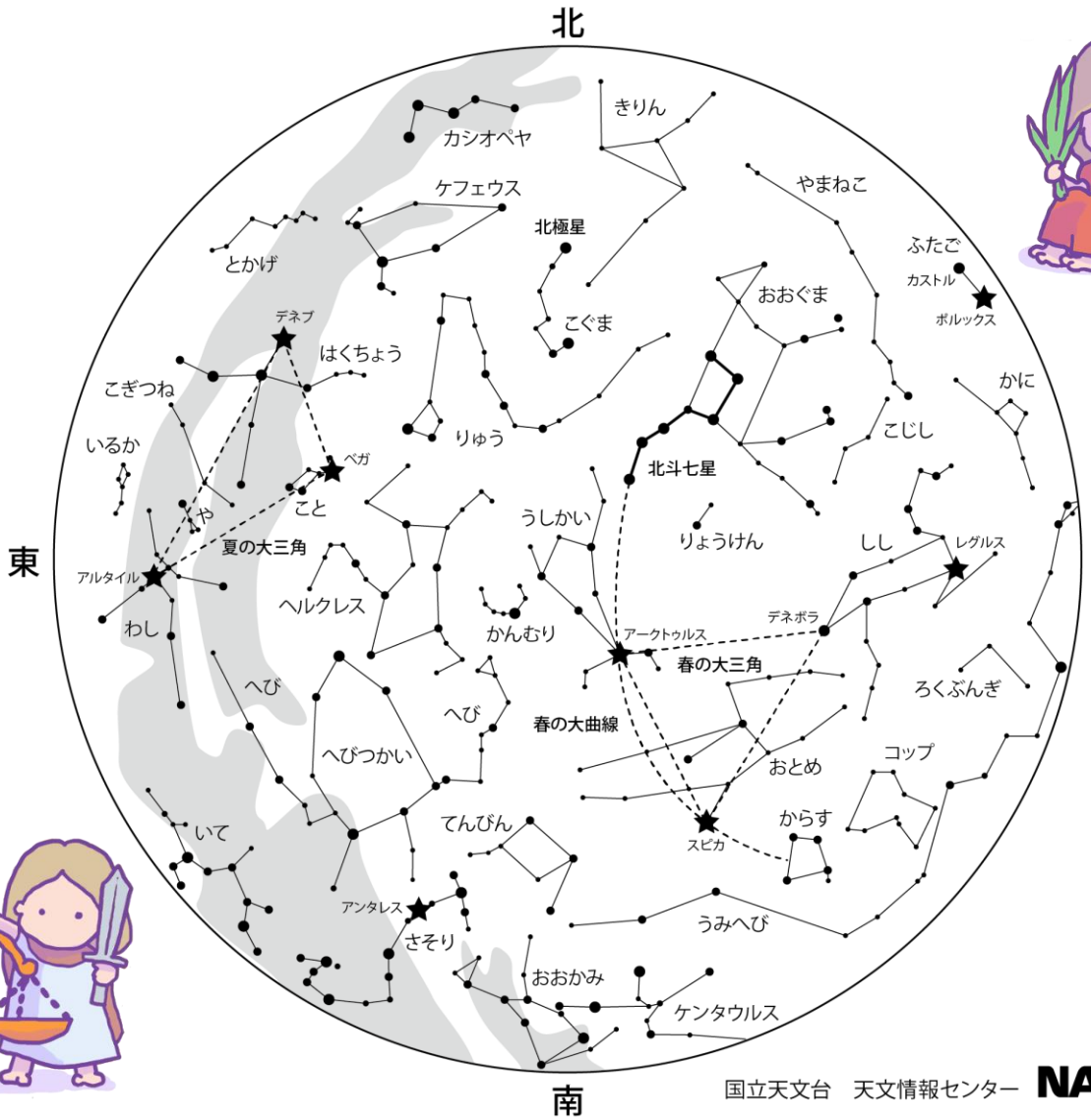
☆ *７月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください* ☆

☆ プラネタリウムのお休み　７／４(月)、１１(月)、１９(火)、２０(水)、２５(月)

☆ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

豊川市ジオスペース館
GEOSPACE

# 7月上旬午後7時30分頃の星空



国立天文台　天文情報センター　NAOJ

## ★ ７月上旬の主な天文現象

| | |
|---|---|
| ２日（土）　金星とアルデバランが接近 | １０日（日）　さそり座δ星ジュバの食 |
| ７日（木）　七夕、小暑、◐　上弦 | １４日（木）　○　満月（スーパームーン）<br>今年最大の満月 |
| ８日（金）　くじら座の変光星ミラが<br>極大のころ | １５日（金）　月と土星が並ぶ |

## ★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ　７/1～15)　※下記時刻は、予想値です

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ◇ | ７月　１２日（火） | ［見やすさ ○］ | ２０：００ | 南 | ～ | ２０：０６　東北東 |
| ◇ | ７月　１３日（水） | ［見やすさ ◎］ | ４：０７ | 北西 | ～ | ４：１４　南東 |
| ◇ | ７月　１３日（水） | ［見やすさ ◎］ | ２０：４７ | 西南西 | ～ | ２０：５３　北東 |
| ◇ | ７月　１４日（木） | ［見やすさ ◎］ | １９：５７ | 南西 | ～ | ２０：０３　北東 |

豆知識：国際宇宙ステーション（ISS）は、明るい星が動ているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。